
～ コスト意識が間接員の「考え」と「行動」を変える ～

間接員のセルフマネジメントによる 生産性向上セミナー

講師：トータルマネジメントシステム研究所 代表 角川 真也 (つのかわ まさや)

終わりのない間接業務

やること、考えることが山ほどあり、際限のない仕事である間接業務ですが、今まで放置されてきたその生産性の悪さが、現在様々な問題の引き金となっています。間接業務の生産性が悪い理由は、生産性を管理していないからです。生産性を管理していない理由は、管理できないからです。管理できない理由は、業務毎の所要工数が数値データで「見える化」されていないからです。逆に考えると、間接業務も直接業務と同様に業務毎所要工数さえ「見える化」できれば、生産管理ができ生産性が向上するという事です。

「見える化」で変わる事

「見える化」する意味は、実態を数値データで把握し、その「ひどさ」に驚いてもらうことにあります。この「驚き」が間接員の意識を変え、行動の変化へとつながります。間接員は自分の業務時間がコストの一部であることに不思議と無頓着です。そんな間接員の意識を変えるツールが『〇〇〇〇一覧表』(伏字箇所は当日開示)です。業務毎所要時間ではピンとこない人も、これを見れば目が覚めるはずですよ。

生産性向上がもたらすもの

自分の担当業務を数値データで「見える化」するだけで、レコーディングダイエット(毎日食べた物の名前と量を記録するダイエット法)と同様に、生産性が上がります。その後、業務削減・業務量平準化・業務改革・業務改善により、さらに生産性を上げます。また間接員の場合、私生活の過ごし方も生産性を大きく左右します。そこまで踏み込んだ当セミナーの受講で間接員の考えと行動が変わり、業務生産性が大きく向上します。ぜひご受講ください。

当セミナーで習得できるノウハウ

数値データによるセルフマネジメント手法、業務の実態の「見える化」手法、コスト意識を定着させる方法、業務の生産性を向上させる方法および考え方、「やりがい」の追求による自己実現手法

ノウハウの実施に必要なもの

①PC ②危機感 ③やる気

■ 受講対象者

【対象部署】 間接部門(総務・経理・管理)
直接部門(設計・製造・品証・物流)
営業部門

【対象者】 部下の残業時間を減らしたい部課長・主任クラス
自身の業務生産性を上げたい担当者

■ セミナー内容

1. なぜセルフマネジメントは必要か？

- 1) 日本で「マネジメント」が発達しなかった理由
- 2) マネジメント不在が引き起こした3つの悲劇
- 3) 過労で倒れてみて初めて気づいたこと

2. 自分の仕事の現状を把握する

- 1) 数値データ(時間)による現状把握手法
- 2) データ精度と採取方法の関係性
- 3) ○○○○一覧表で分かること(伏字箇所は当日開示)
- 4) コスト意識を定着させる
- 5) 自分の仕事を把握する(演習)

3. 仕事の生産性を向上させる(基礎編)

- 1) 生産性向上の考え方
- 2) 「あるべき姿」追及による業務削減方法(演習)
- 3) 業務量の平準化を図る
- 4) 業務改革と改善の使い分け
- 5) 常に「目的」と「目的達成手段」を見直す

4. 仕事の生産性を向上させる(応用編)

- 1) 私生活の過ごし方で仕事の生産性に大きな差がつく
- 2) 画期的なアイデアの創出方法
- 3) ムダの徹底排除方法
- 4) 隙間時間の活用方法

5. セルフマネジメントの効果

- 1) 生産性向上なくしてワークライフバランスなし
- 2) 「働き方改革」で会社と社会はこれからどう変わるか？
- 3) 「やりがい」を追求し、自己実現しよう

講師略歴 中堅部材メーカーにおいて社内コンサルとして間接業務の「見える化」「最小化(ムダ取り+効率化)」「標準化」手法を全社展開、生産性を300%向上させ会社倒産の危機を救う。独立後は『組織マネジメントシステム(ERP)』自社構築による間接業務の生産性向上手法普及に専従。数値データ(時間・金額)を駆使した科学的マネジメント手法による組織パフォーマンス向上を得意とする(「TMS研」でHP検索可)。セミナー開催実績：121回/11年、受講者累計：2,000名以上、受講者評価：平均77.8点、著書『R&D部門の働き方改革とその進め方』(技術情報協会刊・共著)

■ **開催日時** 御社のご希望の日時(4時間)

■ **聴講方法** WEBセミナー(zoom 使用)

■ **受講料** 59,800円/人(消費税・教材の送料含む)

■ **主催** トータルマネジメントシステム研究所(「TMS研」でHPを検索できます)